

Rapport

2024
Number

126

多摩大学 | 広報誌 |

Vol.126 Contents

【経営情報学部】

- 〈下井直毅ゼミ〉聖ヶ丘小学校で出張授業 02
- 〈彩藤ひろみゼミ〉メタバースで石垣島の歴史・文化を学ぶ 02
- 〈梅澤佳子ゼミ〉大学コンソーシアム八王子 令和6年度学生企画事業補助金に採択 02
- 多摩大教員・学生によるスマホ相談会 2024 開催 03

【グローバルスタディーズ学部】

- 〈今村康子ゼミ〉ソラシドエアと連携した地域創生 03
- 2024年度 第1回 SRC 04

【後援会報告】

- 経営情報学部「後援会定期総会・教育セミナー」開催 05
- グローバルスタディーズ学部「第16回後援会定期総会」開催 05
- 2024年度インターゼミ（社会工学研究会）中間発表を実施 06
- パーソルテンプスタッフ(株)と包括連携に関する協定締結 06
- 学生ラウンジ・ウェルケアルーム T-SALON がオープン 07
- 多摩大学出版会のご案内 07
- 多摩大学のトピックスを動画で発信する番組を制作 07
- 公式 SNS ご登録のお願い 07
- 多摩大学アジアダイナミズム研修（済州平和フォーラム 2024）報告 08
- 経営情報学部 2024年度春学期交換留学・研修生プログラム修了式を開催 08
- 【お知らせ】多摩祭 / SGS Festa 08

〈下井直毅ゼミ〉 聖ヶ丘小学校で出張授業

2024年7月8日、多摩市立聖ヶ丘小学校2年生2クラス（39名）を対象として経営情報学部 下井直毅教授とゼミ生9名が出張授業を行いました。本授業は、「生活科」の学習で、教育の多様化や地域社会との連携を学ぶ一環として同校からの依頼により実施したものです。

はじめに、下井教授が本学の施設やサークルについて豆知識クイズを出題して子どもたちの関心を引き付け、場を盛り上げました。授業では、大学生と「えいごにふれてみよう！」をテーマにアルファベットを知らない子どもたちとゲームを通して異なる言語に触れる体験をしました。子どもたちは、大学生からアルファベットを教えてもらい、新しい知識や経験を得て、学ぶ楽しさを実感することができました。

また、大学生は、年齢の異なる子どもたちと交流することで幅広いコミュニケーションスキルが必要になり、ゲームに工夫を凝らしたり、子どもへの声かけを考えたり、臨機応変な対応が求められ、教育への貢献意識を高める機会となりました。

振り返りでは、学生たちから「楽しませる準備はしてきたが、子どもたちの反応に対する準備ができていなかった」「ゲームよりも学ぶことに重きを置いてルール変更したことでうまくいった」等の感想がありました。異年齢の子どもたちとの相互理解を深め、地域社会のつながりを強化する機会となり、地域全体の活性化に寄与することができました。



〈彩藤ひろみゼミ〉メタバースで石垣島の歴史・文化を学ぶ

2024年8月11日、ユニコムプラザさがみはらにて、経営情報学部 彩藤ひろみ教授とゼミ生がさがまちカレッジ夏休みこども体験講座「メタバース石垣島であそぼう！」を実施しました。

当日は小学1年生から6年生までの子ども20名が、PCやタブレットを使ってメタバース（仮想空間）石垣島を体験、メタバース石垣島の制作に関わった学生たちが操作のサポートを行いながら石垣島の魅力を伝えました。

子どもたちは、仮想空間内の自身のアバターを操作し、ジグソーパズルを完成させて希少生物の鳴き声を聞いたり、マングローブ林を探検したり、自分の星座を観察するなど石垣島の特色ある生態系や歴史、文化を学びました。さらに、参加者同士で協力をしながら、シーラカンスタクシーに乗ったり、ウミガメを探したり、現実の世界さながらの楽しい体験をしたことで「現地に行ってみよう！」との声があがりました。

本講座を通して、子どもたちに新しい学びや体験を提供し、子どもたちの視野が広がるきっかけづくりとなることが期待されます。彩藤ひろみゼミではプログラミングや3DCG技術を活用して、メタバースを開発、地域の観光や経済の発展に貢献し、地域活性化を図っています。



〈梅澤佳子ゼミ〉大学コンソーシアム八王子 令和6年度学生企画事業補助金に採択

大学コンソーシアム八王子の令和6年度学生企画事業補助金に、自由企画部門で経営情報学部 梅澤佳子ゼミ（学生7名）の「世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト2024」が採択されました。7月12日には、八王子市学園都市センターにて採択式が執り行われました。



多摩大教員・学生によるスマホ相談会 2024 開催

2024年9月17日、多摩キャンパスにて連光寺・聖ヶ丘地域の地域住民を対象としたICT支援としてスマホ相談会を行いました。当日は相談員として本学増田浩通准教授と学生4名が参加、5名の方が相談会に参加されました。

相談会は、参加者それぞれの相談内容に応じて、一対一で悩みの内容を確認しながら直接、相談に応えるものです。アプリケーションの設定や解除、LINEの友だち追加など基本的な操作に関することを中心に、実際に操作しつつ行われました。また一方でInstagramのデザインや投稿のコツ、タブレットへのGmailの共有など、地域住民の方が地域イベントや会議においてスマートフォンを活用する場面があることを知る機会となりました。

参加者は、スマートフォンの様々な機能や複雑な操作を理解できないことも多く、諦めていた、放置していたなどの声もありました。また、事前に質問を整理して参加し、真剣な眼差しで解決策をメモに取ったり、学生が、参加者のために帰宅後に確認できるよう簡易版オリジナルマニュアルを作成したりしました。

スマートフォンの活用により、知識の習得や新たな発見を促す機会にもなると参加者からは好評のお声を頂戴しました。



グローバルスタディーズ学部

〈今村康子ゼミ〉ソラシドエアと連携した地域創生

2024年度、グローバルスタディーズ学部 今村ゼミは、淑徳大学経営学部観光経営学科の3つのゼミと共に、宮崎に本社を置くソラシドエアと連携した地元価値共創プロジェクトに参加しています。

その一環として、ソラシドエアが主催する地域物産・観光PRイベント“グリーンスカイフェスタ(GSF)”のロゴデザイン、周知・集客方法の検討に取り組みました。7月8日、提案発表会・ロゴコンテストが開催され、今村ゼミのロゴデザイン提案が優勝に輝きました。2024年11月30日～12月1日二子玉川ライズで開催されるGSFからソラシドエアGSFイベントロゴとして使用されます。

今村ゼミでは、観光業・サービス産業を志す学生が、実践的な活動を通じてサービスマネジメントの研究に取り組んでいます。今回の提案では、マーケットイン・プロダクトアウトの観点から調査、検討を重ねました。8月からは宮崎県の自治体が変わり、9月に現地でフィールドワークを行うなど、今後も産官学の連携で地域課題の解決、GSFの成功に向けた共同プロジェクトを継続していきます。

航空会社ソラシドエアが取り組む地域創生に参加し、淑徳大学と交流しながら、実践的な活動を通じて学びを深めています。



2024年度第1回SRC (Student Research Conference)

2024年8月1日、「2024年度第1回SRC (Student Research Conference)」が開催されました。SRCは経営情報学部の学生がホームゼミにおける研究成果を発表する場で、年2回(夏・冬)行っています。

発表と質疑応答を含め10分(Short)、15分(Long)の持ち時間が与えられ、今回は4教室において卒業研究も含め90件を超える発表がありました。研究のテーマや関心は多岐にわたり、教員や参加学生からは様々な質問や意見、感想、アドバイスがあり有意義な場となりました。

〈出原至道ゼミ〉「Kendo XR using full-body tracking」「脆弱性の検証—JWTの暗号アルゴリズムの改竄」「VRプラネタリウムの制作に向けて」「骨格検出によるバックハンドトレーニングシステム」他 〈加藤みずきゼミ〉「コミュニケーションにおける顔文字と比較して見る絵文字」「多次元共感性と無愛想印象との関連性の検討」「高齢者の事故に関する心理学」「日本人の外国食に対する色彩と食欲の関係について」他

〈久保田貴文ゼミ〉「スクールバス運行の課題と改革提案」「バズる曲の特徴の傾向とその配信方法について」「賃貸市場の透明性向上を目指す不動産価格形成要因の分析」「キャッシュレス決済の利用者の特性」他 〈齋藤S.裕美ゼミ〉「ディズニープリンセスに見る女性像や多様性の変化」「ゲームにおける交友関係の広がり」「SNSにおけるプライバシー情報の公開と特定に関する実態」「キャッシュレス決済の現状と現金利用者の心理」他

〈彩藤ひろみゼミ〉「多摩モノレール延伸計画町田方面延伸線路独自CM制作プロジェクト」〈新西誠人ゼミ〉「宅建取得」〈高橋恭寛ゼミ〉「功利主義について」「海保青陵から学ぶ人生100年時代における生涯学習への向き合い方」「山片蟠桃とは」「善中談」「論民談」「学問のすすめ」「齊家論(上)を読んで」「日本の伝統と日本の資本主義」他 〈中庭光彦ゼミ〉「オートバイ用品会社の企業研究」「大会とスポンサーの協賛価値」「聖地巡礼(コンテンツツーリズム)の成功条件とは?」「能登半島地震から考えるこれからの復興と社会の在り方」「観光名所の作り方」「新規就農者のライフスタイル研究」他 〈巴特爾ゼミ〉「中国高齢化」「インドとグローバルサウス~日印関係の重要性~」「ベトナムの電動バイクの市場動向」「マレーシア文化と宗教」「シンガポールから学ぶ人口対策」「タイの格差と貧困の連鎖」「日本の文化とインバウンド」他

〈樋笠亮士ゼミ〉「サイバー犯罪抑止の実践と成果:多摩CCPUの取り組み」〈水盛涼一ゼミ〉「カナダへ旅をしよう!」「スペインを選んだ理由」「トルコについて」

○発表の一覧は右記URLおよびQRコードから閲覧することができます。

URL : <https://src.tama.ac.jp/>



経営情報学部

「後援会定期総会・教育セミナー」開催

2024年6月23日、多摩キャンパスにて、経営情報学部保証人（ご父母）を対象とした「2024年度後援会定期総会・教育セミナー」（後援会主催）を開催しました。

○後援会定期総会

「第1号議案 2023年度事業報告・決算報告」「第2号議案 2024年度事業計画・予算」「第3号議案 2024年度後援会役員選任」について承認されました。

○教育セミナー 第1部

(1) 挨拶

経営情報学部長 小林 英夫 教授

寺島実郎学長が大切にしている時代認識の1つはアジアダイナミズム。留学生を受け入れ、学生に世界の多様性を感じてもらおう。もう1つはDXと生成AI。生成AIの急速な発展にどう向き合うか。スキルの育成以外にも価値観や人とのコミュニケーションがさらに大事になってくる。就職後もしっかりと時代を生きていく資質を身につけられるよう大学は教職員一同力を入れています。

(2) カリキュラム・教育制度の説明

教務委員長 落合 孝彦 教授

多摩大学の教育理念、経営情報学部（学科）の「育成する人材」、単位修得に関わる諸規則や成績評価、カリキュラムについて説明しました。本学の「基本理念」は国際性、実際性、学際性であり、現代の志望として「社会的課題の解決による社会貢献」と「少人数制の手づくり教育」、経営情報学科と事業構想学科の2学科において人材育成に取り組んでいることをお伝えしました。

(3) 学内外で活躍する学生や教員の活動紹介等 広報委員長 樋笠 亮士 准教授

2024年4月～6月までの学生の活躍（海外遠征・学術的研究・地域活動・体育会フットサル部・学生主体活動・国際交流・就職活動・公務員試験）、学生と教員による地域活動（マチカドこども大学・昭島市・奥多摩町）、地域・社会への貢献など実例を挙げて紹介しました。

○教育セミナー 第2部 ゼミ別懇談会・事務局相談（教務関連）

ゼミごとに会場となる教室に移動し、保証人とゼミ担当教員が懇談を行いました。



後援会定期総会



小林学部長の挨拶 落合教務委員長による説明



樋笠広報委員長による多摩大学の活動紹介



ゼミ別懇談会の様子

グローバルスタディーズ学部

「第16回後援会定期総会」開催

2024年6月8日、湘南キャンパスにて、グローバルスタディーズ学部「第16回後援会定期総会」を開催しました。後援会定期総会終了後には、グローバルスタディーズ学部の教育方針の説明、新美潤教授による講演があり、学食体験後の午後からは個別相談が行われました。

○後援会定期総会

「第1号議案 2023年度事業報告および決算報告」「第2号議案 2024年度後援会役員選任」「第3号議案 2024年度事業計画および予算」について承認されました。

○学部の現状と教育方針

グローバルスタディーズ学部長 新美 潤 教授

学部の学生数は588名（男性359名、女性229名、2024.5.1現在）、2023年度卒業生140名、就職率（名目）97.4%。教育方針として、目標はグローバル人材の養成（コミュニケーション力と課題解決力を身につける）。特色は英語教育、少人数教育、実学性・学際性、国際性、社会・地域貢献。3つのキャリアパスとして、2年生から選択できるホスピタリティ・マネジメントコース、国際教養コース、教職課程。2022年度から導入したカリキュラムの特長は、英語教育の強化、少人数教育を活かした学生へのきめ細かなケア、特別専修プログラムの設置等を説明しました。

○講演「中東情勢について」

新美 潤 教授

中東情勢を学ぶ意味（中東や東アジアで発生する戦争や武力衝突、日本の石油輸入国でもある中東地域の平和と安定、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教という3つの宗教間対立）、中東和平問題（ユダヤ民族とアラブ民族の歴史的抗争と解決のための努力）、歴史的経緯、イランの核開発問題（イランの概要、歴史、統治機構、経済）、イランの核開発疑惑とその後の推移、イスラエルとイランの関係、湾岸諸国とイランの関係を元外交官としての経験や見識から解説しました。

○個別相談

相談内容（履修・成績、就職、学生生活、留学）ごとに教室を分け、保証人と教職員が学生の学習や生活などについて個別に話し合う機会となりました。



後援会定期総会



新美学部長による学部の現状と教育方針の説明



新美学部長の講演



個別相談の様子

2024 年度インターゼミ（社会工学研究会）中間発表を実施

2024年8月29日、九段サテライト（東京都千代田区）にてインターゼミ中間発表が行われました。例年中間発表は、箱根において1泊2日の合宿形式で行われていましたが、今回は台風10号の影響により、学生の安全を考え、箱根合宿は中止し、九段サテライトにて中間発表を実施しました。

インターゼミ（社会工学研究会）は、経営情報学部とグローバルスタディーズ学部の学生に大学院生及び卒業生を加えた学部横断、学年縦断型の寺島実郎学長直轄ゼミナールです。10名～20名単位で4つのチームを作り、研究テーマを設定して文献研究とフィールドワークを通じてチームとして課題に対する論文を1年間かけて書き上げます。

多摩学班、アジアダイナミズム班、サービス・エンターテインメント班、デジタル・トランスフォーメーション（DX）班の4つのチームが中間発表を行い、活発な質疑が飛び交いました。最後は寺島学長から講評と研究の方向性に対してアドバイス、温かい激励がありました。緊張感も漂う中、チーム一丸となって行う共同研究発表となりました。

文献調査やフィールドワークの実地調査も様々行われており、「ゼミ力の多摩大」を感じさせる内容となりました。秋学期からは論文完成に向けてさらに研究を深めます。



〈中間発表研究内容〉

- 多摩学班：団地から発信する外国人との共生
- アジアダイナミズム班：モンゴル帝国の遺産～ティムール朝・ムガル帝国を中心に～
- サービス・エンターテインメント班：Z世代によるタイバ重視Z世代に向けた旅のすすめ～短期間旅の学びと意識変化の検証～
- デジタル・トランスフォーメーション（DX）班：乱反射する鏡としてのAIー爆発的に進化するAIが問う社会の未来ー



寺島実郎学長講話



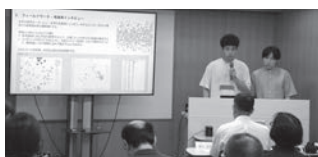
質疑応答の様子



アジアダイナミズム班



サービス・エンターテインメント班



デジタル・トランスフォーメーション班



多摩学班

パーソルテンプスタッフ(株)と包括連携に関する協定締結

2024年7月25日、多摩キャンパスにて多摩大学とパーソルテンプスタッフ株式会社（以下、パーソルテンプスタッフ）との包括連携に関する協定締結式が行われました。パーソルテンプスタッフ 東日本営業本部多摩営業部 今村友美部長による会社紹介、多摩大学経営情報学部 小林英夫学部長による大学紹介、多摩大学総合研究所 松本祐一所長からは協定締結に至る経緯及び概要説明があり、本学 杉田文章副学長とパーソルテンプスタッフ執行役員 東日本営業本部 古舘真二本部長が協定書に調印をしました。

パーソルテンプスタッフは、1973年に創立し、「雇用の創造、人々の成長、社会貢献」を経営理念とし、グループ各社が人材派遣・人材紹介・アウトソーシングなどの総合人材サービスを提供している会社です。「はたらいて、笑おう。」をビジョンに国内外710拠点で事業展開し、現在約18,000社と取引、派遣登録者数は約130万人に及び、多様な働き方を支援しています。

連携のきっかけは2021年夏、パーソルテンプスタッフのプロジェクトメンバーだった本学卒業生と恩師である杉田文章副学長との地域共創における意見交換でした。約2年半にわたり、パーソルテンプスタッフは多摩大学総合研究所のプロジェクトに参加し、ともに多摩地域の課題解決に取り組んできました。これらの共働から得た気づきと学びにより、産官学民の連携を強化することで地域を活性化させ新たな価値が創造できると考え、包括連携協定の構想が生まれました。

■参画いただいた主なプロジェクト

・八王子市産業イノベーションプラン策定（2022～2023年度）・TAMA Social Impact Lab (TAMA-SIL)（2022年度～）・食の和プロジェクト（2022年度～）

雇用の創造を理念とするテンプスタッフと多摩地域の課題解決を研究・教育のテーマとする多摩大学が、実践的な共同研究に取り組むことで、「はたらく」と「学ぶ」を繋げる新たな価値を創造し、社会実装することを目指します。両者の包括連携協定締結により、以下のプロジェクトを実施していきます。また、取り組みの大きな期間は3年間に設定し、年度ごとに目指すべき成果を定めて活動していきます。

- ①『はたらく』『学ぶ』の境界線が無くなる」研究会
- ②研究会をふまえた実証実験として、多様な人材活躍の支援を実施
- ③地域課題の解決に対する協同
- ④地域の教育機関に対するキャリア開発支援



杉田副学長(左)と古舘本部長(右)

学生ラウンジ・ウェルケアルーム T-SALON がオープン

2024年7月、多摩キャンパスD棟2階にT-SALONがオープンしました。T-SALONは学内で一人になりたい時やホッと一息付ける場所になることを目的として開設されました。

T-SALONには悩みを相談できるウェルケアルーム（旧学生相談室）と、一人で静かに過ごせる学生ラウンジ（登録制）が併設されています。ウェルケアルームには、プライバシーに配慮した防音面談ブースと気軽に相談できるオープン面談ブースがあり、健康面から学内外での悩みまで、保健担当、臨床心理士のカウンセラー、学生課職員らがきめ細やかに対応します。学生ラウンジは座席数14席で、一人で静かに過ごすためのスペースとなっています。登録制で、1回の使用時間は60分（1日1回）です。なお使用に際してルールがありますので、よく確認のうえご利用ください（ルールは今後変更の可能性があります）。

スタッフが常駐しているため、ちょっとしたことで気軽に声が掛けられる環境となっています。また学内のアクセスもしやすい場所にあり、自習時間や隙間時間、少し一人になりたい時、悩み事を相談したい時など、ぜひT-SALONをご活用ください。まずはどんなスペースなのか、見学だけでも結構なのでお気軽にお越しください。

◆担当者より◆

T-SALONは皆さんの心のサポート場所として役割を担っていきたいと思っております。静かな空間に一人で過ごしたい、心を休憩させたいなど「心を休ませる場所」としてぜひご利用いただければと思います。

また、どんな些細なことでも構いません。困りごとや相談ごとなどございましたら、スタッフにお気軽にお声がけください。皆さんのご利用をお待ちしております。

開室日：【授業期間】月曜日～金曜日 【長期休業期間】不定期
開室時間：10時～16時
場 所：多摩大学多摩キャンパスD棟2階（旧245教室）

〈学生ラウンジ〉



〈ウェルケアルーム〉



オープン面談ブース



防音面談ブース

多摩大学出版会のご案内

多摩大学出版会は、学術関連図書及び教科書の刊行・頒布を主たる事業とし、本学の研究・教育と、その成果の発表を助成するとともに、我が国の学術・教育・文化の振興・発展に寄与することを目的としています。これまで、本学の教授陣から多彩なテーマで出版物が刊行されています。

これまでの出版物（一例）



①



②



③

- 『多摩学への試み 多摩地域研究』（総監修）寺島 実郎（共編著）中庭 光彦（著者）中庭 光彦・松本 祐一・荻野 博司
- 『モンゴル帝国とユーラシア史 社会人・大学院生・学生の目線からのグローバルヒストリー』（総監修）寺島 実郎（監修）金 美徳・水盛 涼一（編集）光永 和弘・杉 由紀
- 『刑法における故意と錯誤 ― 行為計画説による見地から』（著者）樋笠 堯士



詳細はこちらから

多摩大学のトピックスを動画で発信する番組を制作

第1～3回は経営情報学部の留学生をゲストとして、留学生の多摩大ライフと題し、日本への留学理由や多摩大学を選んだ理由、将来の進路などについて話を聞きました。

また、第4回では卒業生にお越しいただき、中高校での失敗エピソードから、多摩大学でのゼミや課外活動から得た学びや教授との出会いで人生逆転した経歴を語っていただきました。



動画は公式 YouTube チャンネル（下記 QR コード）よりぜひご覧ください。



〈公式 SNS ご登録のお願い〉

多摩大学公式 SNS では、ゼミ活動やサークル、各種大学イベント、教員の研究など様々な発信をしています。フォローしていただき、学生や教員の活躍をぜひご覧ください。

公式 Instagram
（経営情報学部）



公式 Instagram
（グローバルスタディーズ学部）



公式 X



公式 Facebook



公式 YouTube



多摩大学アジアダイナミズム研修（済州平和フォーラム 2024）報告

多摩大学アジアダイナミズム研修視察として、韓国済州島で開催された済州平和フォーラム 2024（5月28日～6月1日）に、本学学生 34 名（経営情報学部 31 名、グローバルスタディーズ学部 3 名）が参加しました。また高大連携の一環として、多摩大学附属聖ヶ丘高校 13 名の生徒と、多摩地域のアクティブシニアを支援するジェロントロジー企画の一環として寺島学長監修リレー講座の受講者 4 名が参加しました。

多摩大学は、今回で 9 回目の参加となり、経営経済の 2 つの企画セッションを担当しました。1 つ目は、千本俤生本学特別客員教授 (KDDI 創業者) とクォン・オヒョン ソウル大学理事長 (元サムスン電子会長、元サムスングループ副会長) による日韓 CEO 特別対談が行われました。2 つ目は、グローバル経営セッションで、『革新と成長の DNA：グローバル市場を志すスタートアップ・新規事業 CEO の秘密』をテーマに、Google 社、UBER ASIA、(株) 能作ら 3 者の経営トップによる議論が繰り広げられ、参加者はグローバルビジネスの最前線を肌で感じることができました。どちらのセッションでも参加した学生から鋭い質問が投げかけられ、充実した質疑応答が行われました。また、多摩大生と日本の経営者との懇親会では、フォーラム主賓である福田康夫元内閣総理大臣も参加し、激励の挨拶をしてもらいました。○多摩大ジャーナル No.42（2024 年 9 月 30 日発行）に研修へ参加した学生のレポートが掲載されています。



学生に激励の挨拶をする福田康夫元総理大臣



Google社 専務招聘日韓学生交流会



千本教授(KDDI創業者)とサムスン電子元会長との記念写真

経営情報学部 2024 年度春学期交換留学・研修生プログラム修了式を開催

2024 年 7 月 24 日（水）、多摩大学多摩キャンパスにて 2024 年度春学期交換留学・研修生プログラム修了式が行われ、本学での交換留学を修了する広東財経大学（中国）からの留学生 8 名と天津財経大学（中国）からの留学生 3 名、ESIEA（Ecole superieure d'informatique, electronique, automatique、フランス）からの研修生 3 名が参加しました。

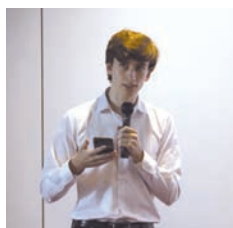
はじめに、国際交流委員長の石川晴子教授から留学生へ修了証書と記念品が授与され、祝辞が述べられました。石川委員長は、「皆さんは母国の大学で努力し、多摩大学への留学を実現させた。学業への熱意やチャレンジする姿勢、学校生活を楽しむ姿は眩しく見えた。これまでの努力と、私たちに残してくれたものに感謝します」とメッセージを贈りました。

その後、それぞれの大学の代表者から日本語でスピーチが行われました。「留学を通じて、日本の文化と言語を深く理解し、多くの友人と出会うことができた」、「日本語での授業は難しかったが、先生方のご指導と励ましのおかげで学ぶことができ、視野を広げることができた」など、それぞれの留学生生活を振り返り、語りました。

式典終了後には、参加者全員で記念写真を撮影、懇親会では教職員や留学生同士での活発な交流も見られ、これまでの思い出を振り返りつつ、別れを惜しんでいました。



修了証書と記念品授与



留学・研修生代表によるスピーチ



参加者全員での記念写真



懇親会の様子

お知らせ

2024 年 10 / 19 土

多摩キャンパス

経営情報学部

第 36 回 多摩祭

ハロウィンパーティー 2024



2024 年 11 / 3 日

湘南キャンパス

グローバルスタディーズ学部

第 18 回 SGS Festa 2024

SGS Festa by New Generation

～ようこそ想像を超える SGS のぶっ飛んだ学園祭へ～

